



## 2014 年第 1 四半期(1 月・3 月)の伝染病発生状況

(International Collating Centre からの情報)

オーストラリアからの報告提供時期の変更に伴い、同国の報告は、1 四半期遅れて配信されることに注意されたい。従って、以下に、オーストラリアの 2013 年第 4 四半期の報告を記載する。この四半期の報告はオーストラリアのみであることに注意していただきたい。その後、その他の国の 2014 年第 1 四半期の報告を通常の形式で記載する。

### オーストラリアの 2013 年第 4 四半期の報告

Animal Health Australia(AHA)による Animal Health Surveillance Quarterly(AHSQ)  
<http://www.animalhealthaustralia.com.au/elibrary> を参照

### 州および準州の報告

オーストラリアでは、動物の疾病管理に関しては、州と準州がそれらの領域内で責任を負っている。国の動物衛生プログラムが動物衛生委員会との協議を通じて推進され、オーストラリア動物衛生局(AHA)によって管理されている。

### ノーザン準州

シュール・フィッツパトリック、第一次産業省・水産省、ノーザン準州による報告

### 神経疾患(ヘンドラウイルスを除く)

15 歳の牧畜馬が狂騒、振戦および過度の興奮等の重篤な神経症状および行動異常を示し、顔部に外傷を負ったことが報告された。同馬は隔離され、検疫下に置かれた。ヘンドラウイルス、クンジンウイルス、およびその地域に常在するフラビウイルスおよびオルビウイルスによる急性感染は、回復期サンプルの血清学的検査により除外された。タヌキマメ属植物由来ピロリジジンアルカロイドの鑑別診断を実施したが、臨床化学検査および同馬の完全な回復により除外された。

#### クイーンズランド州

報告事項なし。

#### ニューサウスウェールズ州

報告事項なし。

#### ヴィクトリア州

報告事項なし。

#### タスマニア州

報告事項なし。

#### サウスオーストラリア州

報告事項なし。

#### ウェスタンオーストラリア州

報告事項なし。

### 2014年第1四半期の報告

#### アルゼンチン

報告事項なし。

#### オーストラリア

冒頭で述べたように、オーストラリアは2013年第4四半期の報告を上述。

#### カナダ

##### 馬伝染性貧血(EIA)

2014年1月1日から2014年3月31日の間に、アルバータ州(3件)とサスカチュワン州(18件)で合計21件のEIA陽性馬が確認された。これらの陽性馬は、6つの異なる施設で発見され、アルバータ州で1施設、サスカチュワン州で5施設であった。サスカチュワン州の施設のうち、1施設は2011年に、2施設は2012年に感染が確認されていた。確定診断は寒天ゲル免疫拡散(AGID、Coggins)試験を用いた血清学的検査によりなされた。

#### チリ

報告未着。

## デンマーク

### 腺疫(*Streptococcus equi*)

第1四半期の間に、コペンハーゲン北部の乗馬施設において2件の発生が報告された。最初の発生は2014年2月27日に報告され、最後の症例は2014年3月10日に報告された。8頭の子ラブレッド種が感染し、確定診断は菌分離によってなされた。

## フランス

(フランスの馬感染症疫学監視ネットワークの RESPE から提供された情報)

### ウマヘルペスウイルス-1(EHV-1)による流産

この四半期にサラブレッド種(1件)、フレンチ・トロッター種(1件)およびフレンチ・サドルブレッド種(1件)を含む、5件の発生が確認されている。これらの症例は、カルヴァドス県、アンドル県、ムーズ県、モルビアン県およびタルヌ＝エ＝ガロンヌ県で発生した。PCR検査により陽性診断がなされた。

### ウマヘルペスウイルス-1(EHV-1)による神経疾患

2014年1月13日に、30頭の馬が飼養されているバ＝ラン県の施設において EHV-1 による神経疾患の発生が1件確認された。感染馬はレジャーに使用されていた15歳のフレンチ・サドルブレッド種で、発熱と横臥の臨床症状を認めた。全血を用いた PCR 検査により確定診断がなされた。

### ウマヘルペスウイルス-1 (EHV-1)による呼吸器疾患

2014年1月29日、カルヴァドス県の2歳のフレンチ・トロッター種において、EHV-1 による呼吸器疾患の発生が、鼻腔スワブを用いた PCR 検査によって確認された。

2014年2月14日、カルヴァドス県(1例)とウール県(2例)において EHV-1 による呼吸器疾患の発生が2件確認された。鼻腔スワブを用いた PCR 検査によって陽性診断がなされた。

2014年2月21日、カルヴァドス県において EHV-1 による呼吸器疾患の発生が1件報告された。鼻腔スワブを用いた PCR 検査によって陽性診断がなされた。

2014年3月5日、カルヴァドス県において EHV-1 による呼吸器疾患の発生が1件確認された。鼻腔スワブを用いた PCR 検査によって陽性診断がなされた。

2014年3月26日、カルヴァドス県の種馬場において EHV-1 による呼吸器疾患の発生が

確認された。感染馬は 14 歳のフレンチ・サドルブレッド種牝馬で発熱を呈した。鼻腔スワブを用いた PCR 検査によって陽性と診断された。その後さらに 13 頭の馬が感染した。

#### ウマヘルペスウイルス-4(EHV-4)による呼吸器疾患

この四半期にフレンチ・トロッター種(5 件)、フレンチ・サドルブレッド種(2 件)および交雑種(1 件)を含む、10 件の発生が確認された。これらの発生はカルヴァドス県、イゼール県、ロワレ県、オルヌ県、サルト県およびヴァンデ県で認められた。感染馬は発熱、鼻漏、咳および浮腫を含む様々な臨床症状を呈した。

#### ピロプラズマ病

フランスでは依然、風土病である。

#### 腺疫(*Streptococcus equi*)

この四半期にフレンチ・サドルブレッド種(2 件)、フレンチ・トロッター種(1 件)、サラブレッド種(1 件)、ベルギー温血種(1 件)、フリージアン種(1 件)、ハープリンガー種(1 件)、ポニー(1 件)および交雑種(1 件)を含む 10 件の発生が報告されている。これらの発生はエーヌ県、カルヴァドス県、イル＝エ＝ヴィレーヌ県、イゼール県、ロワール＝アトランティック県、ロワレ県、メーヌ＝エ＝ロワール県、イヴリーヌ県、ヨンヌ県およびエソンヌ県で認められた。感染馬は発熱、鼻漏やリンパ節腫脹等の臨床症状を呈した。PCR 検査によって陽性診断がなされた。

#### ロタウイルス

2014 年 3 月 27 日、オルヌ県にある施設においてロタウイルスによる下痢症の発生が 1 件確認された。陽性診断は糞便を用いた PCR 検査によりなされた。

#### ドイツ

##### ウマヘルペスウイルス-1(EHV-1)による流産

2014 年 2 月 9 日、ノルトライン・ヴェストファーレン連邦州の施設でワクチン接種されていたサラブレッド種牝馬が双子を流産した。EHV-1 感染は、Dr.Boese 研究所有限会社の実施した双子の流産胎児組織を用いた PCR 検査によって確認された。感染した牝馬およびその馬に接触したその他の牝馬は、他のすべての動物から隔離された。その以降の症例は報告されていない。

さらに、ニーダーザクセン連邦州の施設において、サラブレッド種の繁殖群の間で EHV-1 の発生が報告された。発生は 2014 年 1 月 22 日に始まり、最後に報告された症例は 2014 年 2 月 24 日であった。ワクチン接種された 3 頭の牝馬が感染し、最初の症例における診断

は、Dr.Boese 研究所有限会社の流産胎児組織を用いた PCR 検査によりなされた。次の 2 頭の牝馬からの流産胎児は、追加の病理学的、組織学的および細菌学的検査のためにハノーバー大学に送られた。どちらの症例の検査結果も、その特徴的な変化が PCR の結果と一致することが明らかとなり、Dr.Boese 研究所有限会社の調査結果を支持するものであった。感染した施設は隔離下におかれ、HBLB の実施規則に基づき対策が実施された。現在までにそれ以上の例は報告されていない。

#### ウマヘルペスウイルス(EHV-1)による神経疾患

ある施設において 3 頭のサラブレッド種で EHV-1 の非神経病原性株による感染が、診断された。馬は発熱と鼻漏を認め、3~4 日間軽度の神経症状を呈した。診断はベルリンのウイルス学研究所で行われ、血清学的検査、ウイルス分離および PCR 検査によって確認された。

#### Dr.Boese 研究所有限会社 (HBLB CEMO 認定研究所) による検査結果

##### 馬伝染性子宮炎(CEM)

20 頭の非サラブレッド種(種牡馬 14 頭と繁殖牝馬 6 頭)が、生殖器スワブを用いた *Taylorella equigenitalis* の菌分離と PCR 検査によって CEM と診断された。

##### ウマヘルペスウイルス-1(EHV-1)による流産

第 1 四半期の間に、8 施設において 12 頭の馬で EHV -1 が確認された。流産のうちの 5 症例は悪露 (子宮からの腔内滲出物) および肺穿刺吸引による PCR 検査によって診断がなされ、5 例中 2 例については EHV-1 の神経病原性株が検出された。

##### ウマヘルペスウイルス 1 型(EHV-1) による神経疾患

生存不能であった 3 例の新生子馬で、肺穿刺吸引を用いた PCR 検査によって診断がなされた。そのうちの 1 例は EHV-1 の神経病原性株であった。1 例は発熱および運動失調を呈し、鼻咽頭スワブを用いた PCR 検査によって診断がなされた。他の 2 例も鼻咽頭スワブを用いた PCR 検査によって確認されたが、臨床症状はなかった。

##### ウマヘルペスウイルス 4 型(EHV-4) による流産

流産胎児からの肺穿刺吸引物を用いた PCR 検査によって 1 頭の馬が EHV-4 と確認された。

##### 馬ウイルス性動脈炎(EVA)

3 頭の温血種種牡馬においてウマ動脈炎ウイルス(EAV)感染が確認された。陽性診断は精液を用いたウイルス分離および PCR 検査によってなされた。

## ロタウイルス

2 施設の 6 頭の子馬において、糞便材料を用いた抗原 ELISA 検査によりロタウイルスが確認された。

## サルモネラ症

3 歳牝馬においてサルモネラが確認された。糞便を用いた細菌培養および PCR 検査により陽性診断がなされた。

## 腺疫(*Streptococcus equi*)

2 施設において 4 頭の馬が腺疫と診断された。臨床症状が認められなかった 1 例は、鼻腔スワブを用いた細菌培養および PCR 検査によって確定診断がなされた。さらに 3 例については、膿瘍からのスワブを用いた細菌培養と PCR 検査によって確認された。

## 香港

報告事項なし。

## アイルランド(共和国)

### サルモネラ

第 1 四半期の間に 4 件のサルモネラが報告された。これらのうち 3 件はレンスターにおいて発生し、1 件は死後の検体により確認された。

### 腺疫(*Streptococcus equi*)

第 1 四半期の間に 19 件の腺疫が報告された。これらのうち 16 例はレンスター、3 例はマンスターでの発生であった。

## イタリア

報告未着。

## 日本

### ウマヘルペスウイルス-1(EHV-1)による流産および生後直死

発生は 2014 年 1 月 3 日に始まり、最後の症例報告 3 月 31 日であった。16 施設において 49 頭のサラブレッド種あるいは非サラブレッド種が感染した。北海道日高家畜保健衛生所によるウイルス分離によって確定診断が行われた。49 頭のうち 42 頭がワクチン接種されていた。ある施設では、流産 2 例および生後直死 13 例を含む 15 例の発生が認められた。

#### ウマヘルペスウイルス-1(EHV-1)による神経疾患

2014年1月3日、ワクチンを接種されたサラブレッド種において1件の発生があった。北海道日高家畜保健衛生所によるウイルス分離によって確定診断がなされた。

#### 馬パラチフス(*Salmonella Abortusequi*)

流産の発生は2014年1月17日に始まり、1月20日に最後の症例報告があった。1つの施設において4頭の非サラブレッド繁殖馬が感染した。北海道十勝家畜保健衛生所による菌分離によって確定診断がなされた。

#### ニュージーランド

##### ウマヘルペスウイルス-1(EHV-1)による神経疾患

EHV-1の発生は2014年1月9日に始まり、2014年2月12日に最後の症例が報告された。1つの施設で合計15頭の馬が感染し、7頭は安楽死処分となった。これはニュージーランドにおいて、EHV-1による神経疾患のはじめての確認であった。MPI動物衛生研究所による血清学的検査およびPCR検査によって確定診断がなされた。

#### シンガポール

報告事項なし。

#### 南アフリカ

##### アフリカ馬疫(AHS)

南アフリカのAHS阻止領域内のポータービル地域で、アラブ馬農家を診察している民間獣医による受動的な臨床疫学調査を通じて、アフリカ馬疫(AHS)を疑う症例が発見された。2014年3月6日に所有者から収集した2例の臨床症例の検体はAHSVの陽性反応を示した。農林水産局(DAFF)はOIEに通知し、疾病発生の注意喚起が2014年3月12日に発表された。

厳格な移動制限と監視を伴った封じ込め領域が2014年3月10日に設定された。2014年4月2日には、ベルク川に近いAHS監視領域内のウェリントン地域においてAHSの発生が確認されたとして封じ込め領域を拡大した。現在、発生地域内では、14件の施設で、合計40例の発生と、そのうちの7頭の死亡が確認されている。ほとんどの場合、臨床症状は軽度である。確認された施設のうち2つは、AHSの監視領域内のウェリントンの近くである。

AHS阻止領域内のロバートソン地方にあるサラブレッド種馬場でも、AHS症例が発見された。ウイルスの血清型はポータービル地域の発生例と同じだが、関連は立証されておら

ず、現在はポータービルの症例とは関係のないものと考えられている。

南アフリカにおける感染地域であるウエスタンケープ州のユニオンデール地方において AHS が確認された。これもまたポータービル地域およびウェリントン地域の発生とは関係のないものと考えられている。

すべての症例は、プレトリア大学の獣医遺伝学研究室による RT-PCR 検査によって確定診断がなされた。

ウマヘルペスウイルス-4(EHV-4)の研究プロジェクト

調査は、EHV-1 および EHV-4 の鼻汁からの排出と、関連する所見および危険因子を見いだすために、2013 年 8 月中の 9 日間にわたり南アフリカのハウテン州の 2 歳のサラブレッドセールドで、プレトリア大学獣医遺伝学研究所により実施された。

全体で、南アフリカの 3 つの主要なサラブレッド繁殖地域のさまざまな牧場から来た 358 頭中 90 頭の牡と牝の子馬を、9 日間にわたってサンプリングした。

90 頭のうち 13 頭(14.4%)が観察期間中 PCR 検査によって EHV-4 を排出していることが証明された。EHV-1 排出の証拠は認められなかった。複数日にわたり排出する馬も認められた。

検体は、EHV-2、EHV-5、馬インフルエンザ、ウマ鼻炎ウイルス、馬アデノウイルスおよび *S. equi subsp. equi* の調査のためにも収集された。これらの結果については保留されている。

## 韓国

報告事項なし。

## スペイン

馬ピロプラズマ病(*Babesia caballi* & *Theileria equi*)

スペインでは依然として風土病である。

## スウェーデン

報告未着

## スイス

ボレリア症



2014年3月21日に1例が報告された。

#### ウマヘルペスウイルス-1(EHV-1)による流産

不適切にワクチン接種を受けた1施設の15頭の牝馬のうち5頭の発生が、2014年1月27日に報告された。診断はウイルス分離によってなされた。

#### 馬ウイルス性動脈炎(EVA)

2014年3月13日に1例が報告された。

#### サルモネラ症

2014年3月23日に報告された。菌分離によって確定診断がなされた。

#### 腺疫(*Streptococcus equi*)

2014年第1四半期に2件の個別の症例が報告された。1例は1月、1例は3月であり、診断は菌分離によって行われた。

#### 破傷風

2014年1月8日に1例が報告された。

#### トルコ

報告事項なし。

#### アラブ首長国連邦(UAE)

##### 馬ピロプラズマ病(*Theileria equi* and *Babesia caballi*)

ピロプラズマ病は、UAEの非サラブレッド種において定期的に臨床例が報告されている。確定診断はドバイ中央獣医学研究所による血清学的検査および病原体分離によってなされた。

#### 腺疫(*Streptococcus equi*)

2013年第4四半期で言及した流行は、臨床症状が認められず、最後の検査においても15頭未満となり解決が近い。全体で9施設77頭の馬が感染した。確定診断はドバイ中央獣医学研究所による血清学的検査および菌分離によってなされた。

#### イギリス

すべての英国の症例と発生は、既に第3四半期とそれ以降の中間報告書により公表されているのでそれらを参照のこと。

イギリスの症例や発生報告は、第4四半期中の中間報告としてすでに発表していることに

注意されたい。

- EHV-1 による流産

[http://www.aht.org.uk/icc/Interim\\_Report1\\_january14.html](http://www.aht.org.uk/icc/Interim_Report1_january14.html)

[http://www.aht.org.uk/icc/Interim\\_Report4\\_february14.html](http://www.aht.org.uk/icc/Interim_Report4_february14.html)

[http://www.aht.org.uk/icc/Interim\\_Report5\\_february14.html](http://www.aht.org.uk/icc/Interim_Report5_february14.html)

[http://www.aht.org.uk/icc/Interim\\_Report3\\_march14.html](http://www.aht.org.uk/icc/Interim_Report3_march14.html)

[http://www.aht.org.uk/icc/Interim\\_Report8\\_march14.html](http://www.aht.org.uk/icc/Interim_Report8_march14.html)

- EHV-1 による呼吸器疾患

[http://www.aht.org.uk/icc/Interim\\_Report2\\_january14.html](http://www.aht.org.uk/icc/Interim_Report2_january14.html)

- EHV-1 による神経疾患

[http://www.aht.org.uk/icc/Interim\\_Report2\\_march14.html](http://www.aht.org.uk/icc/Interim_Report2_march14.html)

- EHV-4 による呼吸器疾患

[http://www.aht.org.uk/icc/Interim\\_Report2\\_january14.html](http://www.aht.org.uk/icc/Interim_Report2_january14.html)

[http://www.aht.org.uk/icc/Interim\\_Report3\\_february14.html](http://www.aht.org.uk/icc/Interim_Report3_february14.html)

[http://www.aht.org.uk/icc/Interim\\_Report6\\_march14.html](http://www.aht.org.uk/icc/Interim_Report6_march14.html)

## アメリカ合衆国

### クロストリジウム腸炎

ケンタッキー州において、*C. difficile* A 型が 2 例、B 型が 6 例報告された。さらに、*C. perfringens* の A 型も 6 例報告され、それらはすべて若齢馬であった。

### ウマヘルペスウイルス(EHV) による呼吸器疾患

呼吸器症状の有無にかかわらず、EHV-1 及び/又は EHV-4 感染の血清学的証拠がいくつかの州で確認された。

### ウマヘルペスウイルス-1(EHV-1)による流産

ケンタッキー州の施設において合計 10 例の流産が報告された。

### ウマヘルペスウイルス-1 型(EHV-1)による神経疾患

この四半期に、EHV-1 による神経疾患の流行が数件記録されている。最初の報告は、3 月初旬にミネソタ州東部の施設で発生した 2 例であった。その後、ミネソタ州の他の 4 施設においても確認され、さらにウィスコンシン州西部およびアイオワ州の施設にまで拡大した。

ウマヘルペスウイルス 1 (EHV-1)が多くの罹患馬から検出され、いくつかの株は非神経病原性遺伝子型と決定された。ウイルスへの暴露は、おそらくバレルレース競技（訳注：ロデオで行われる競技の一種）で発生したと考えられている。合計 8 例が当該施設で発生し、疫学的に関連のある、ウィスコンシン州の施設で 2 例、アイオワ州の施設で 1 例が発生したと推測されている。EHV-1 による神経疾患とは無関係の症例がコロラド州の施設で最近確認され、EHV-1 非神経病原性株が検出された。この症例は、ミネソタ、ウィスコンシンおよびアイオワのどの症例の間にも直接的または間接的な接触の既往はなかった。

#### ウマヘルペスウイルス-2(EHV-2)およびウマヘルペスウイルス-5(EHV-5)

少数頭の、EHV-2(4 例)および EHV-5(3 例)の感染例がテキサス州で確認された。

#### 馬伝染性貧血(EIA)

6 例の EIA がテネシー州で共有管理されている 2 つの施設で確認された。感染馬は、数年間、他からの導入のない隔離された馬群の馬であった。本病は、セールに供された馬に対するルーチンの血清学的スクリーニングにより、最初に検出された。

#### 馬インフルエンザ

馬インフルエンザは、アメリカでは、地方病的に発生している。2014 年第 1 四半期中にもいくつかの州で散発的な発生が認められた。

#### 馬ピロプラズマ病(EP)

最新の国内 EP 状況報告書によると、*Theileria equi* 感染は 4 例が確認され、3 例はクォーターホース競走馬で 1 例はニューメキシコ州、2 例はテキサス州、4 例目はカリフォルニア州のスペイン純血種であった。3 頭の EP 陽性クォーターホースのうち 2 頭は競馬場に入厩する前の積極的サーベイランスを通じて検出され、1 頭はこれらの馬のうちの 1 頭の同居馬であった。カリフォルニア州の症例馬はメキシコから密輸された *T. equi* 感染馬の追跡調査の過程で検出された。4 頭の陽性馬のうち 3 頭は隔離され、1 頭は安楽死処分となった。

2009 年 11 月以来、検査を実施した馬の総数は、現在 247,000 頭を超えたところであり、219 頭の陽性が確認され、そのうち *T. equi* が 209 頭、*Babesia caballi* が 10 頭であった。EP 陽性馬のおよそ 80%がクォーターホースの競走馬である。

#### 馬ウイルス性動脈炎(EVA)

ウマ動脈炎ウイルス(EAV)感染の血清学的証拠がケンタッキー州、ミネソタ州、テキサス州、フロリダ州、サウスカロライナ州、オハイオ州、メリーランド州およびインディアナ

州を含む多くの繁殖牧場で検出された。EVA の臨床徴候と感染の関連についての報告はなかった。

#### ローソニア腸症

*Lawsonia intracellularis* 感染症例がいくつかの州で報告された。全部で 17 頭の感染陽性例がケンタッキー州の限られた施設において確認された。

#### レプトスピラ症

ケンタッキー州の 10 例の流産においてレプトスピラ感染と診断された。

#### ノカルジア胎盤炎および流産

*Amycolatopsis* 属細菌感染に関連する 8 例の胎盤炎/流産がケンタッキー州で報告された。

#### サルモネラ症

サルモネラ症の限定的な症例および/または発生が調査期間中に確認された。B 群サルモネラ菌の 6 例はケンタッキー州において診断された。

#### 腺疫

腺疫はアメリカでは風土病である。腺疫の症例数および/または発生数を正確に推定することは、多くの症例が報告されていないために困難である。この四半期では、80 の報告例が、菌培養または PCR 検査によって確定診断がなされた。陽性例はケンタッキー州およびニューヨーク州での複数の発生の報告を含め、15 の州で確認された。

#### ベネズエラ

報告未着。